

參考資料

交通に係る県民等意識調査（アンケート）結果の概要

長野県新総合交通ビジョンを策定するにあたり、県民の皆様等を対象に交通に関わる意識や実態を把握する調査を以下のとおり実施し、平成24年6月に「交通に係る県民等意識調査報告書」として、とりまとめました。

1 調査の概要

(1) 県民アンケート調査

項目	内容
調査対象	・15歳以上の長野県内居住者
調査方法	・住民基本台帳または電話帳をもとに、調査対象世帯を無作為に抽出 ・各世帯につき15歳以上の世帯構成員に対して、最大4名までに回答してもらうこととし、アンケート票を4部送付 ・郵送配布、郵送回収
抽出世帯数	・3,200世帯
回収結果	・回収世帯数：1,867世帯（回収率58%） ・回収票数：4,138票 ・回収期間：平成24年2月9日～3月15日

(2) 県内事業所アンケート調査

項目	内容
調査対象	・長野県内の民営事業所
配布数	・500事業所
調査方法	・郵送配布、郵送回収
回収結果	・回収数：265票（回収率53%） ・回収期間：平成24年2月16日～3月15日

(3) 県外事業所アンケート調査

項目	内容
調査対象	・長野県外の民営事業所 500事業所 ・対象地域…東京都23区、名古屋市、大阪市、北陸圏（糸魚川市、上越市、富山市、金沢市）
配布数	・東京都23区：150票 ・名古屋市：150票 ・大阪市：100票 ・北陸圏：100票
調査方法	・郵送配布、郵送回収
回収結果	・回収数：105票（回収率21%） ・回収期間：平成24年2月16日～3月15日

(4) 県外居住者アンケート調査

項目	内容
調査対象	・15歳以上の長野県外居住者 ・対象地域…東京圏（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）、愛知県、大阪圏（大阪府、京都府、兵庫県）、北陸圏（新潟県、富山県、石川県）、福岡県
調査方法	・WEBによるアンケート調査 ・調査実施期間…平成24年3月5日～3月8日
調査対象サンプル数	・東京圏：400サンプル ・愛知県：200サンプル ・大阪圏：200サンプル、 ・北陸圏：100サンプル ・福岡県：100サンプル

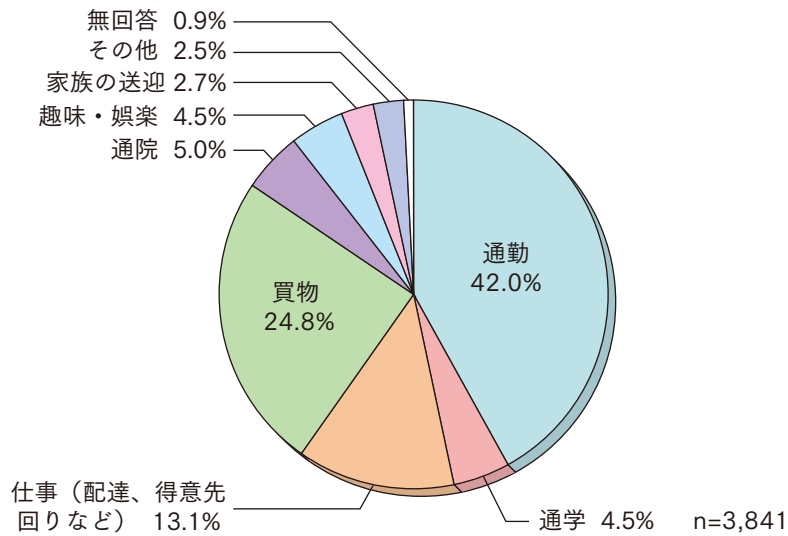
※注1 グラフ内等に記載している「n」は母数です。
例：(n=152) は、「152人が回答」という意味です。

2 調査結果（抜粋）

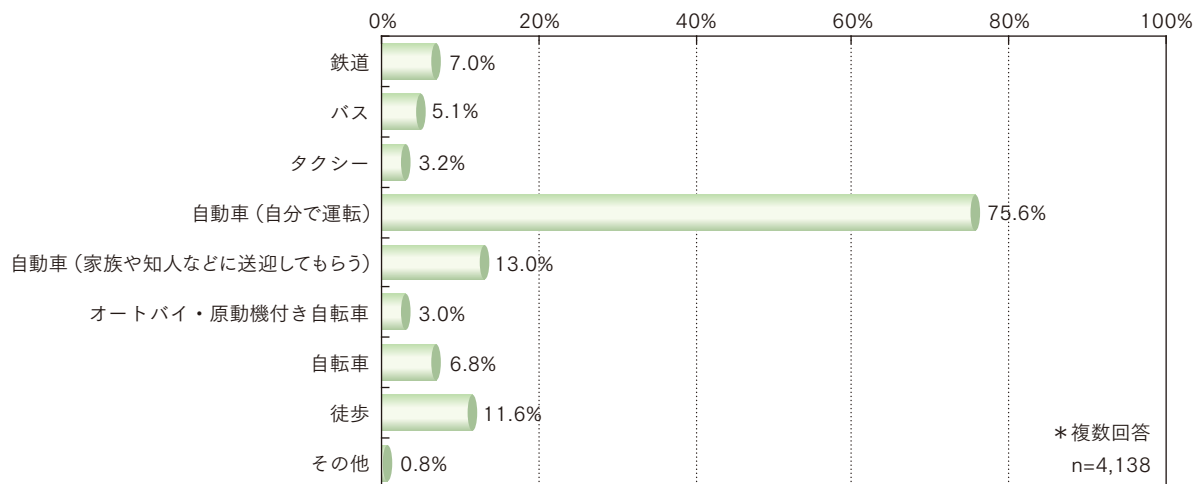
長野県民の交通手段等について

問 普段、自宅から外出する機会の多い目的は何ですか。また、その際に利用する交通手段は何ですか。（「県民アンケート調査」より）

外出する機会の多い目的

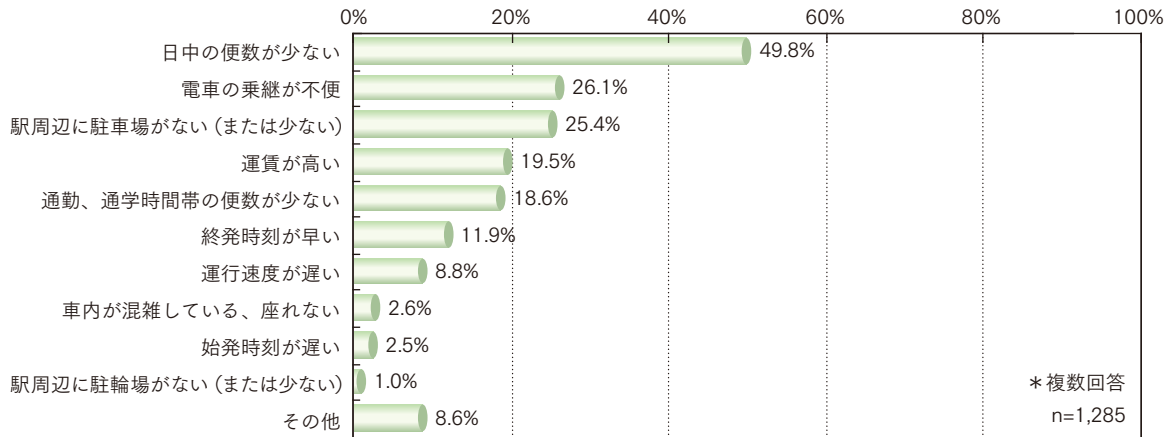


外出する際に利用する交通手段

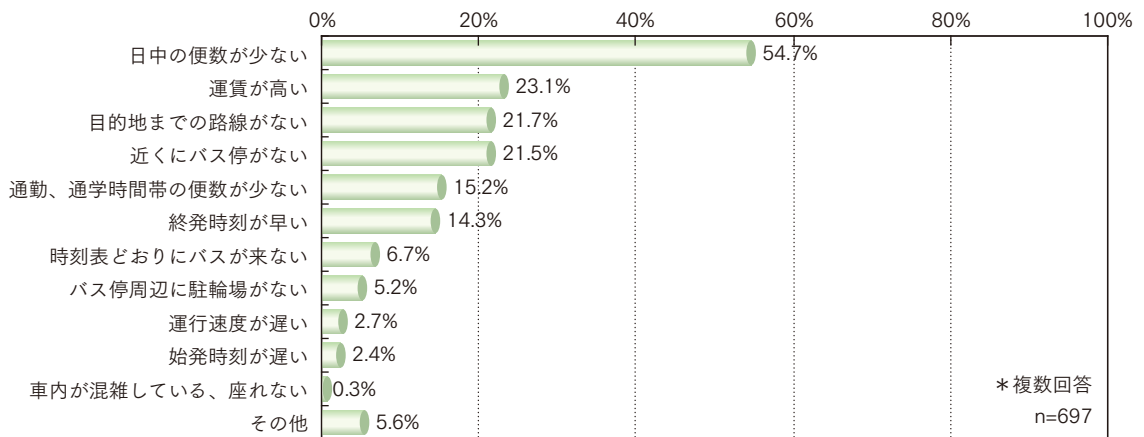


問 普段、利用している交通手段に対する不便や不満な点は何ですか。（「県民アンケート調査」より）

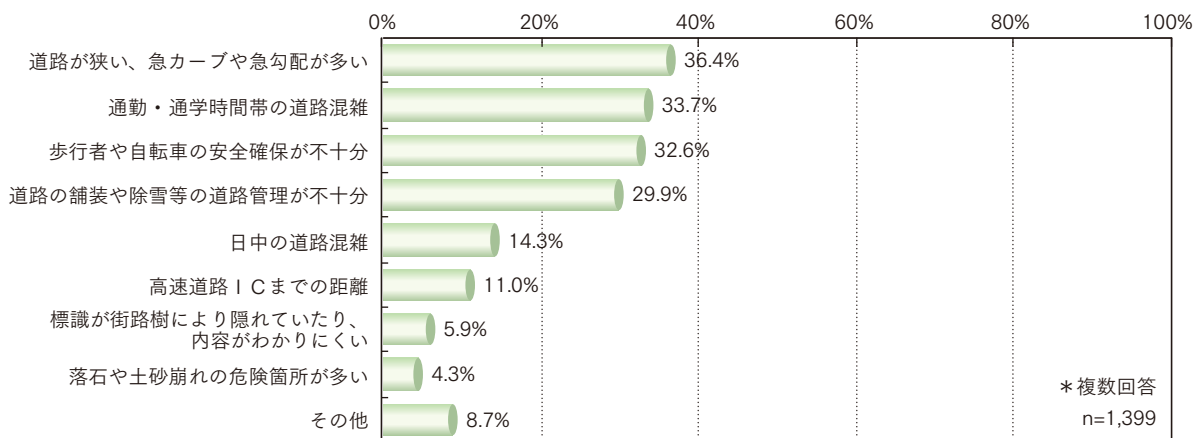
鉄 道



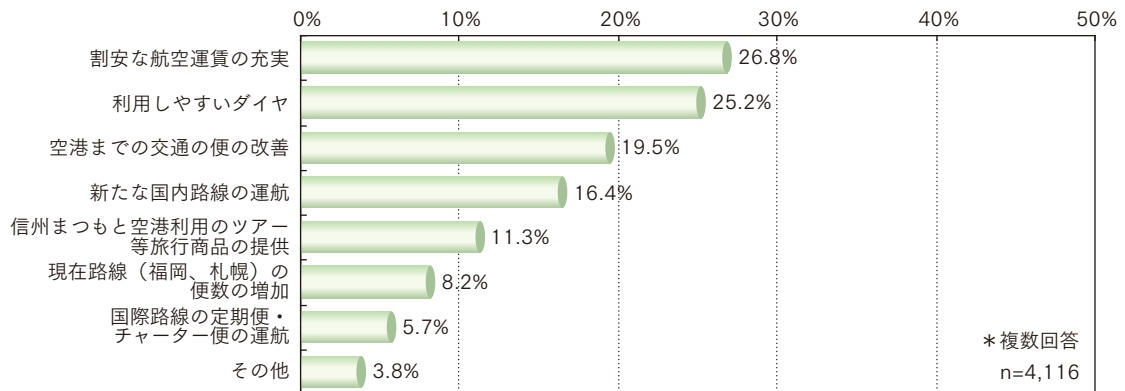
バ ス



自 動 車

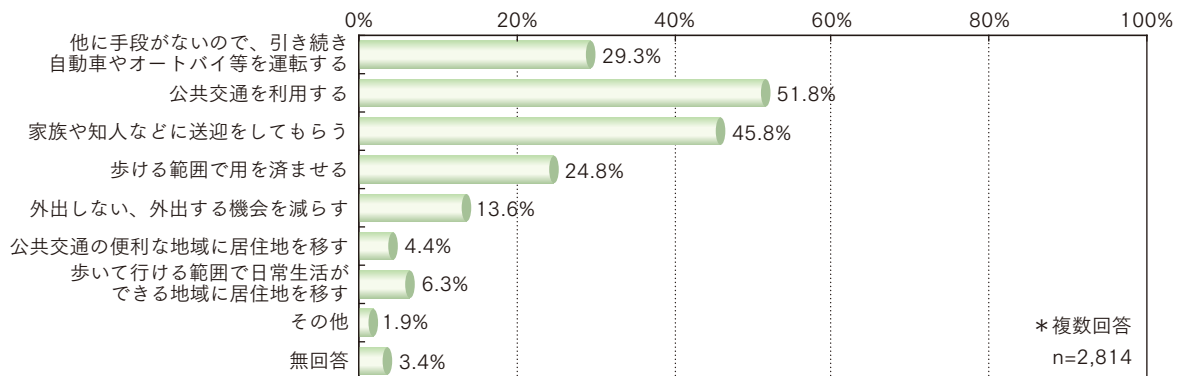


問 「信州まつもと空港」を利用するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 (「県民アンケート調査」より)

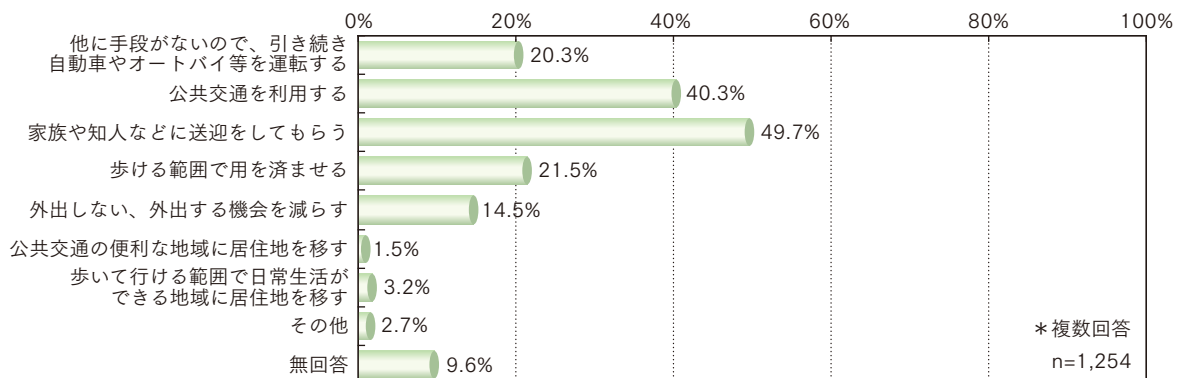


問 高齢になった時や身体機能が衰えた時、自動車やオートバイの運転が不安になった場合、日常生活のためにどのような対応をとりますか。(「県民アンケート調査」より)

65歳未満

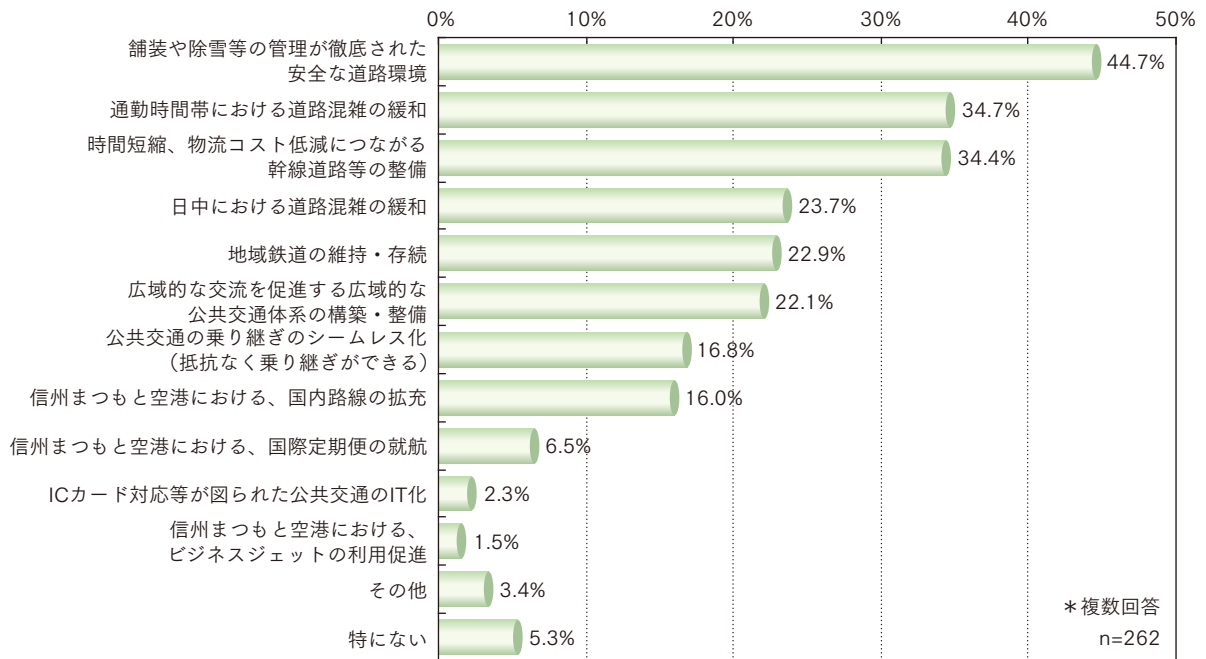


65歳以上





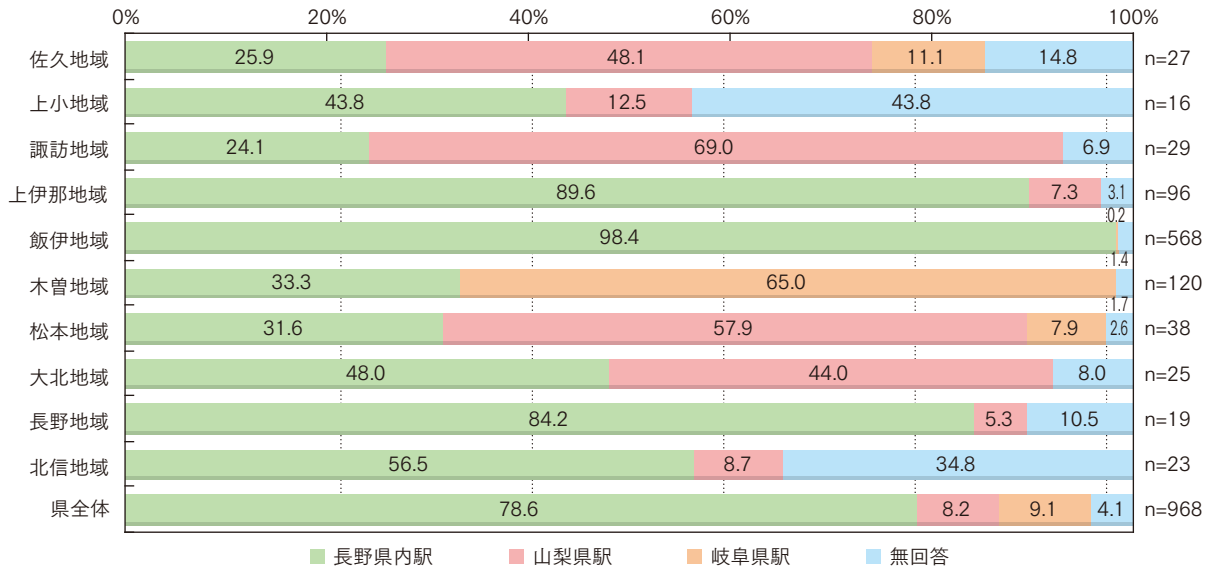
長野県の産業活動を強化・維持していくため、また、貴事業所の業務活動を支援するための交通面での取組として、何を重視すべきかと思えますか。（「県内事業所アンケート調査」より）



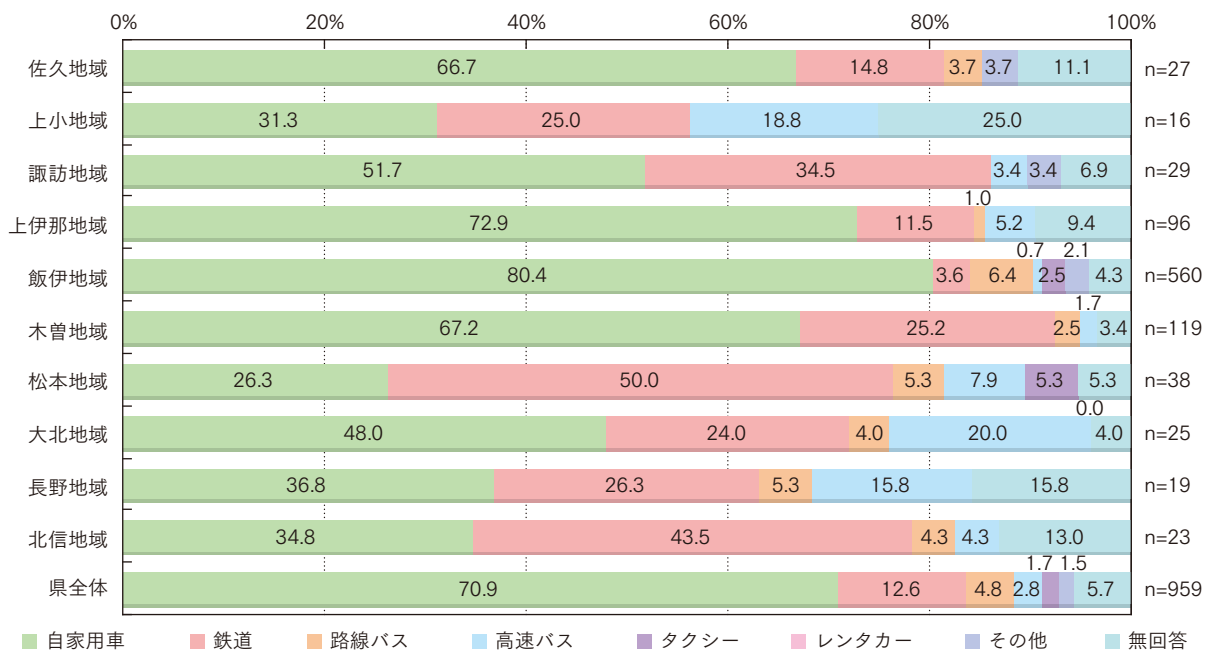
リニア中央新幹線について

問 リニア中央新幹線を利用して東京方面に行く場合、主にどこの駅を利用する可能性がありますか。また、駅までの交通手段として何を希望しますか。（「県民アンケート調査」より）

主に利用する可能性のあるリニア中央新幹線駅

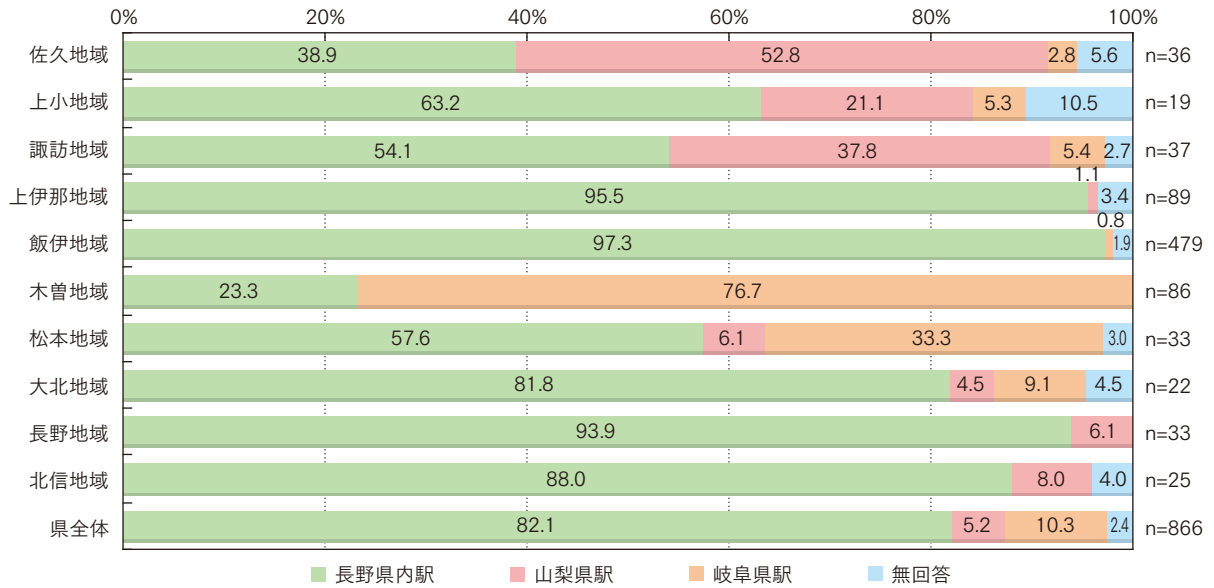


リニア中央新幹線の利用駅まで希望する交通手段

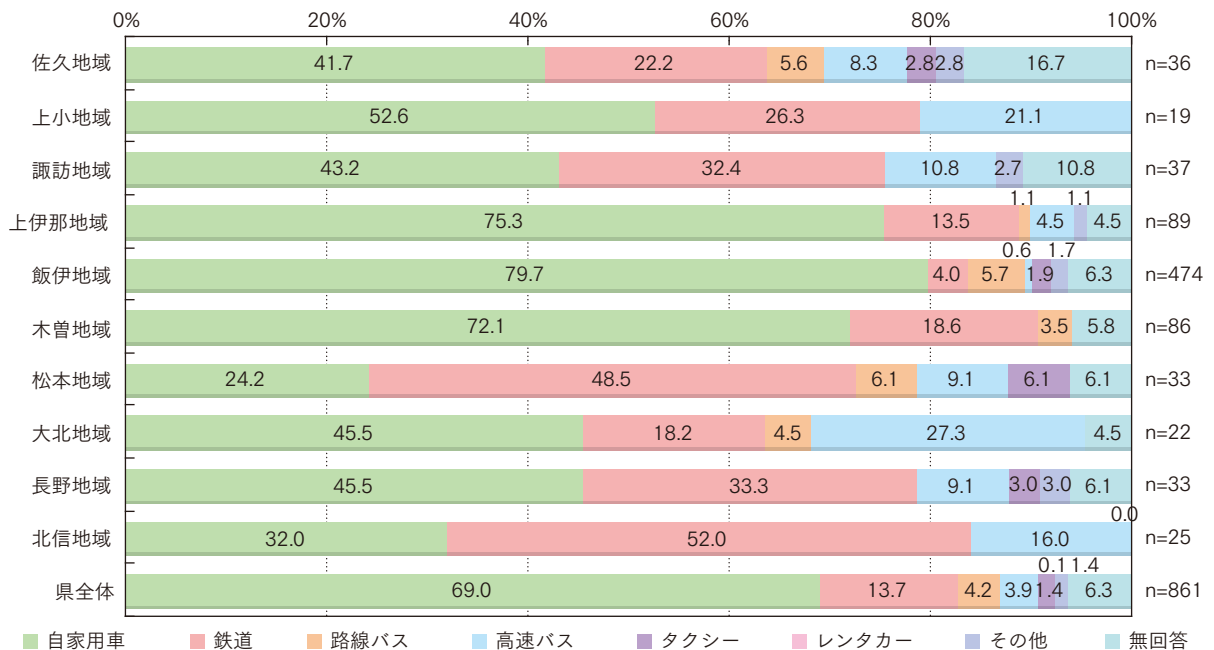


問 リニア中央新幹線を利用して名古屋方面に行く場合、主にどこの駅を利用する可能性がありますか。また、駅までの交通手段として何を希望しますか。（「県民アンケート調査」より）

主に利用する可能性のあるリニア中央新幹線駅

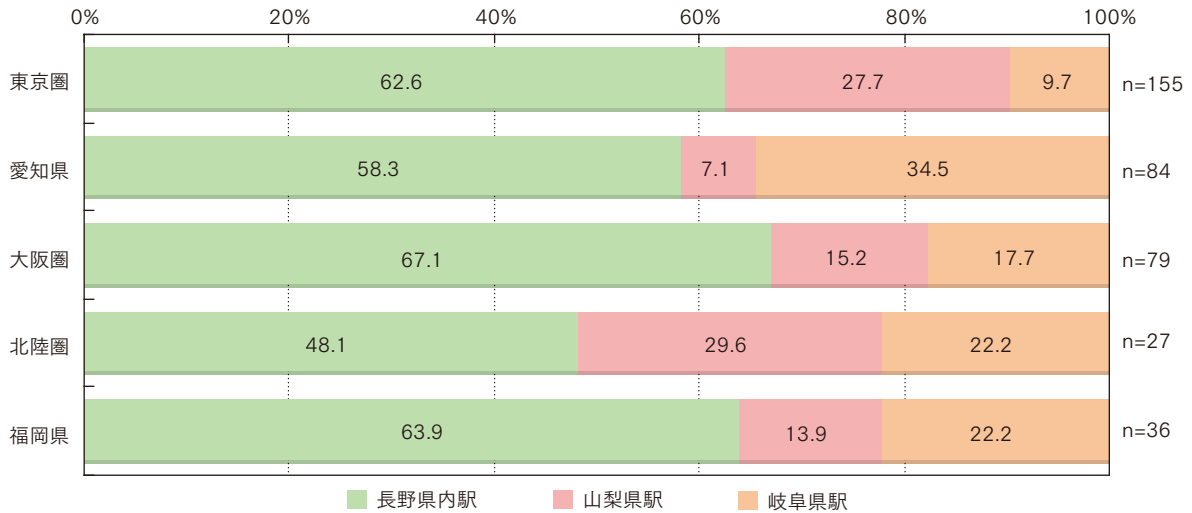


リニア中央新幹線の利用駅まで希望する交通手段

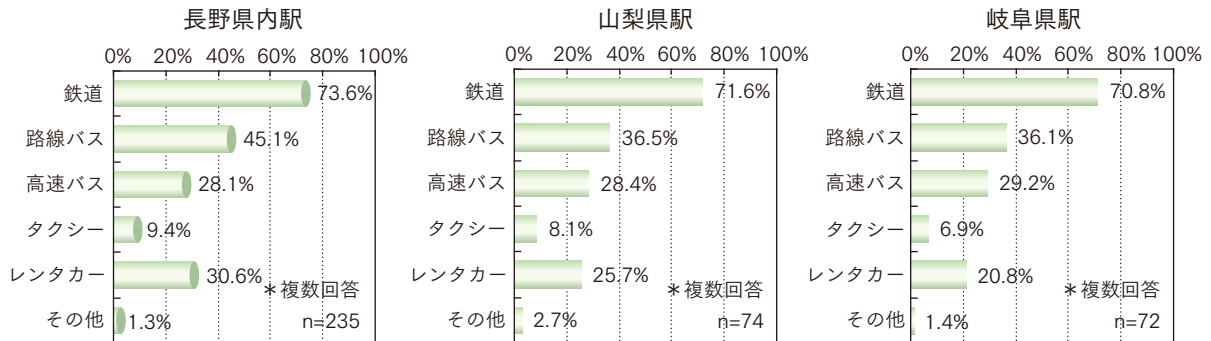


問 リニア中央新幹線を利用して長野県を訪問する場合、主にどこの駅を利用する可能性がありますか。また、駅から移動する交通手段として何を希望しますか。
 (「県外居住者アンケート調査」より)

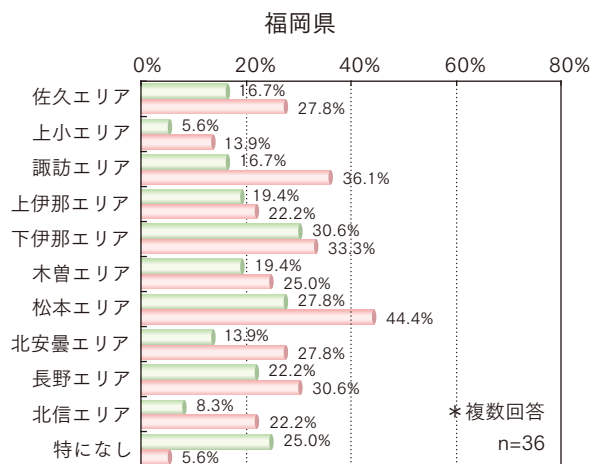
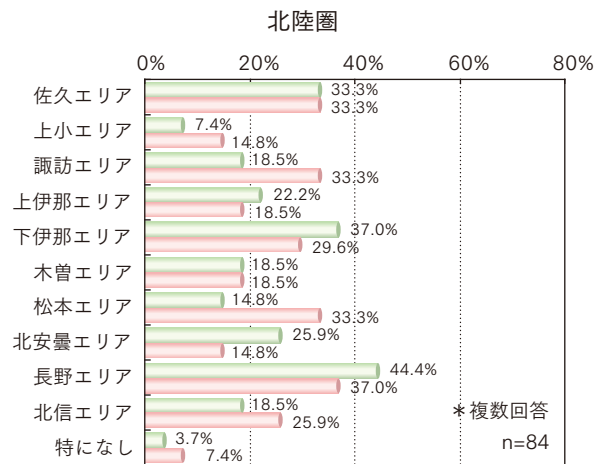
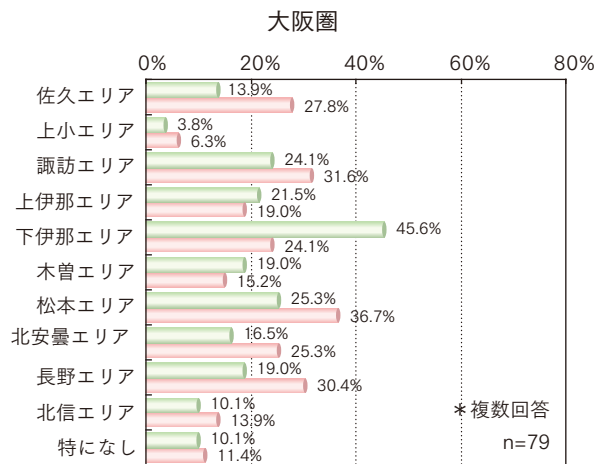
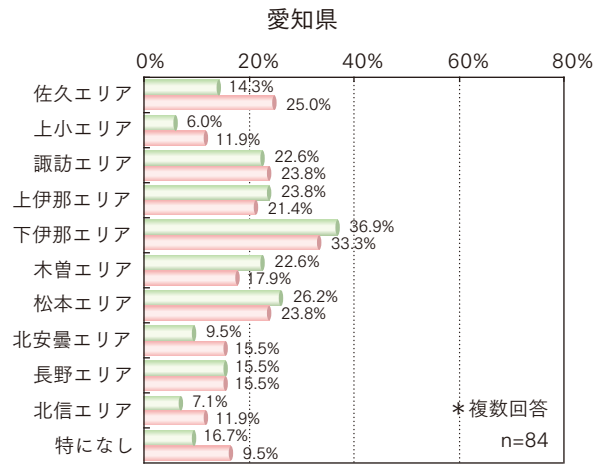
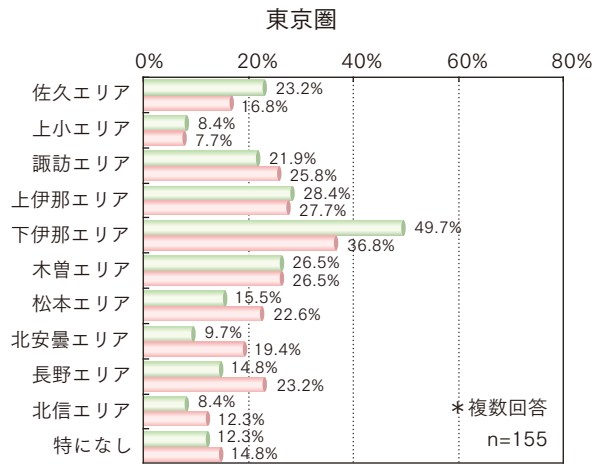
主に利用する可能性のあるリニア中央新幹線駅



リニア中央新幹線駅から移動する交通手段

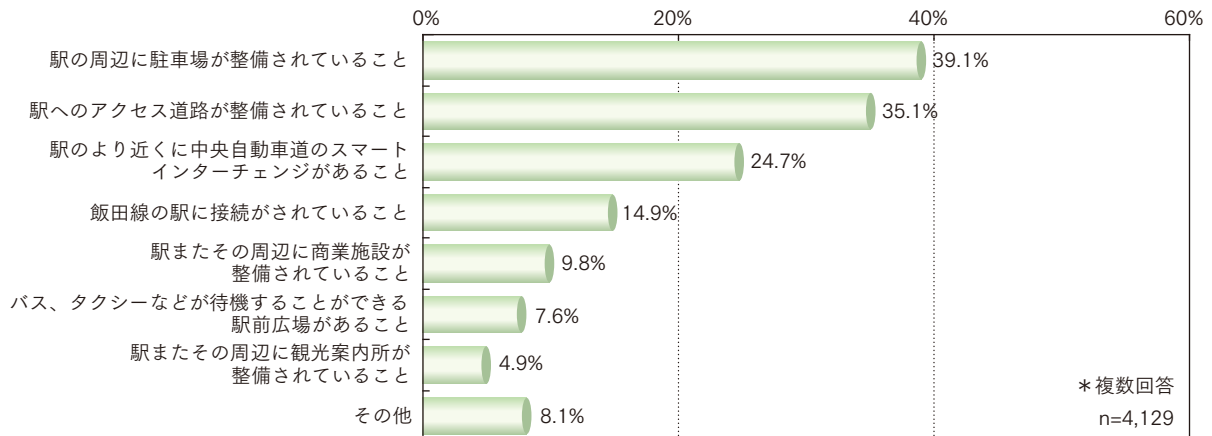


問 リニア中央新幹線で観光・レジャー目的により、長野県に「日帰り旅行」、「宿泊旅行」をする場合、どの地域に行く機会が増えると思いますか。（「県外居住者アンケート調査」より）

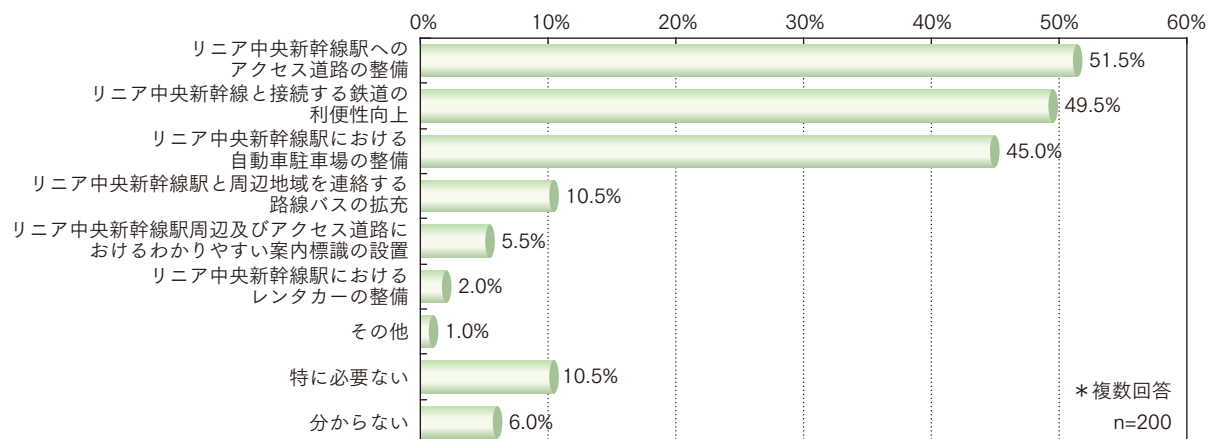


■ 日帰り旅行で増えると思う場所
■ 宿泊旅行で増えると思う場所

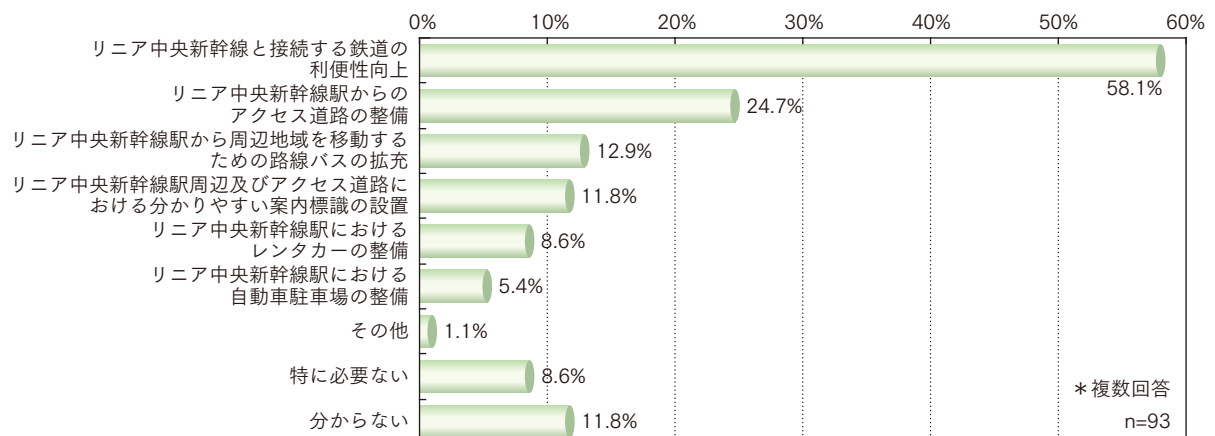
問 長野県内に建設されるリニア駅に関して、どのようなことを望みますか。
 (「県民アンケート調査」より)



問 リニア中央新幹線を利用して県外へ移動するためには、どのような対応が必要だと思いますか。
 (「県内事業所アンケート調査」より)



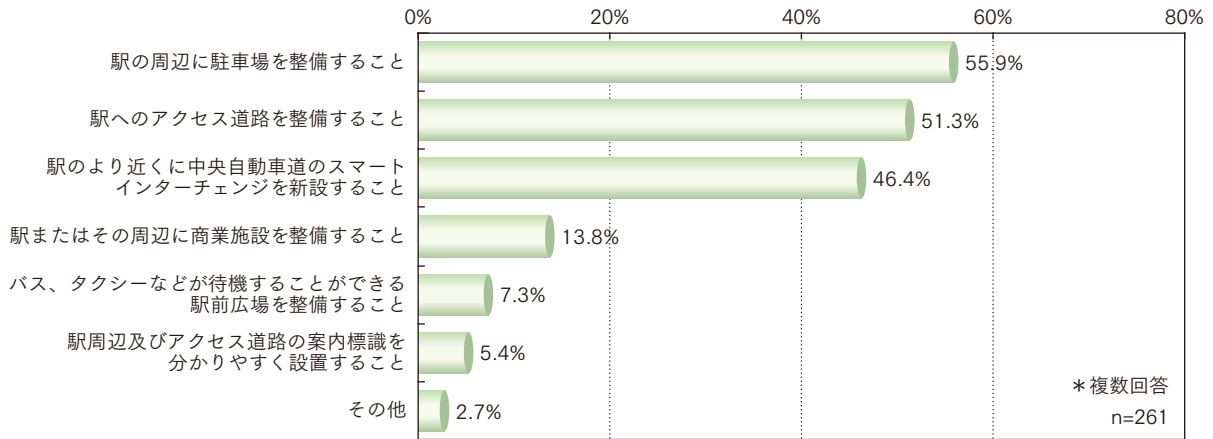
問 リニア中央新幹線の駅から、長野県内を移動するための交通手段としてどのような対応が必要だと思いますか。(「県外事業所アンケート調査」より)



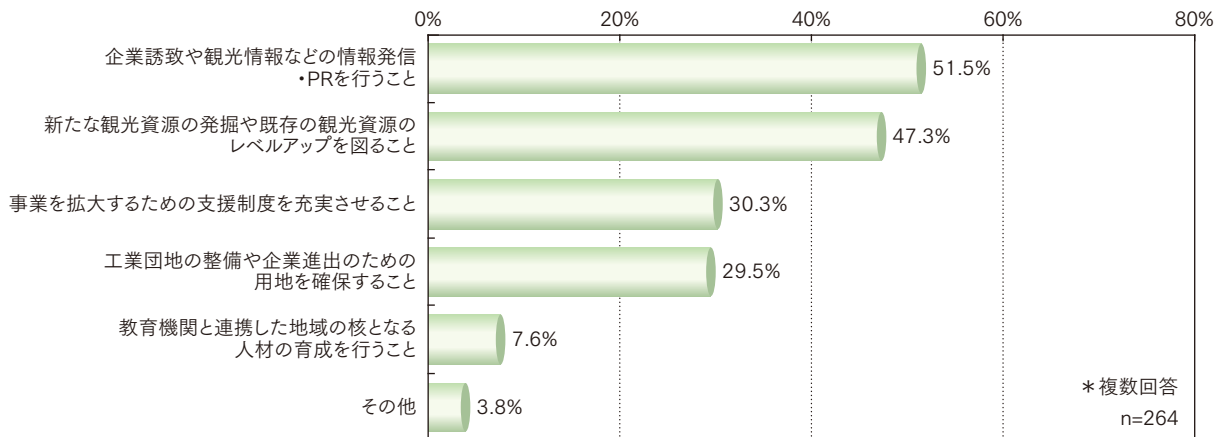


リニア中央新幹線の開業に併せて県や市町村が取り組むことが望ましいと考える事項は何ですか。
 (「県内事業所アンケート調査」より)

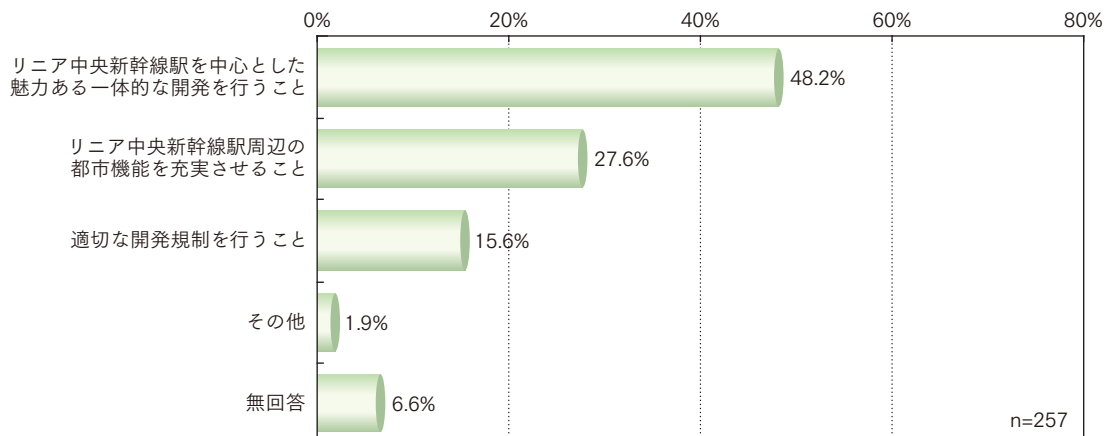
交通面での取組



産業・観光面での取組



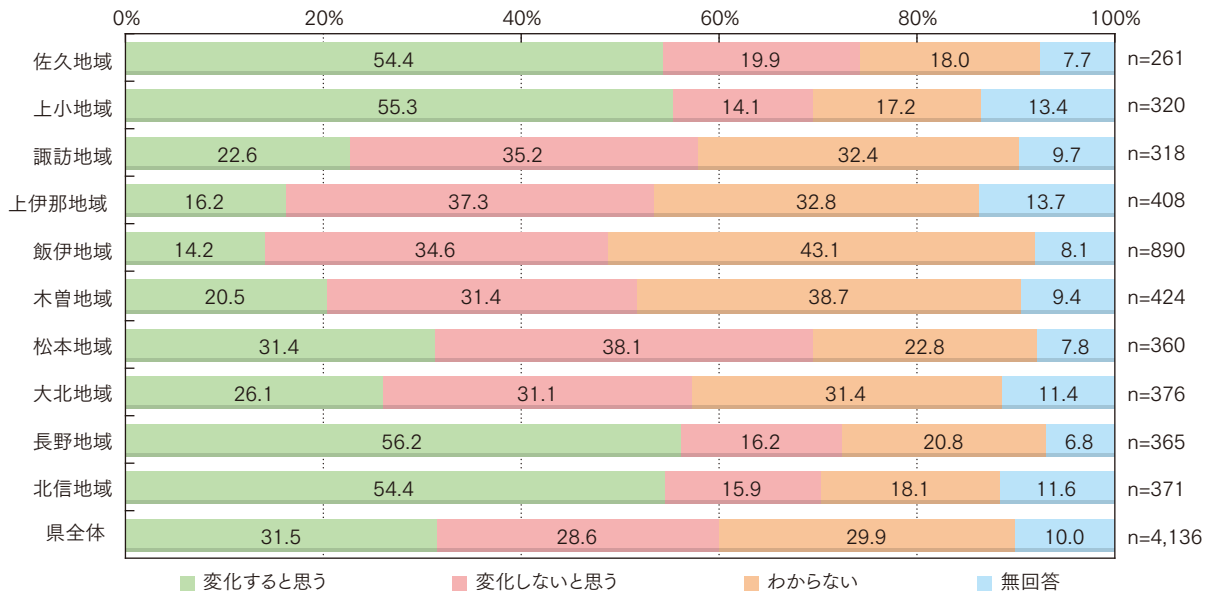
まちづくり面での取組



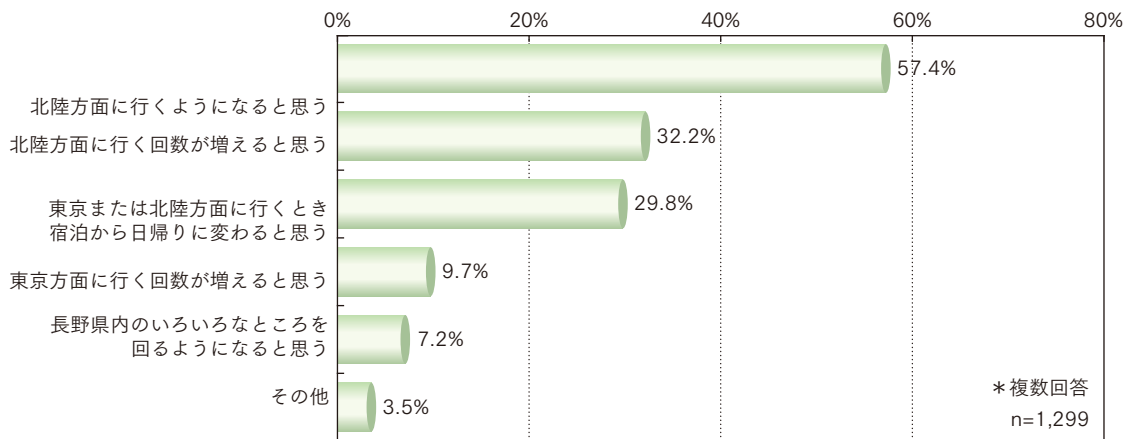
北陸新幹線について

問 北陸新幹線が金沢駅まで延伸されることにより、何らかの行動の変化があると思いますか。また、その変化とはどのようなものですか。（「県民アンケート調査」より）

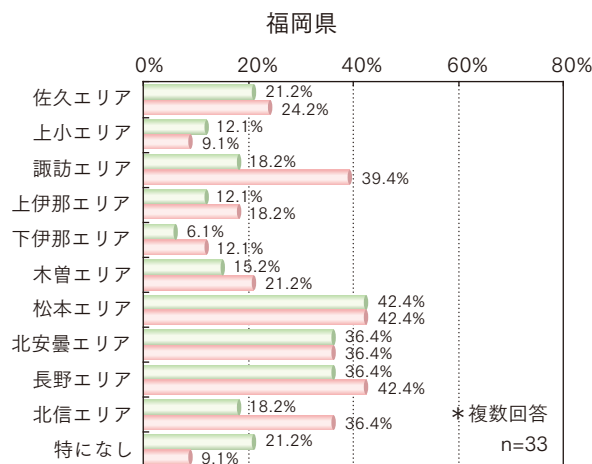
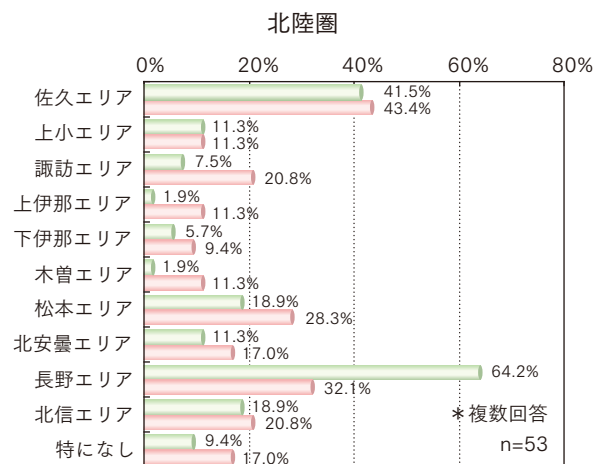
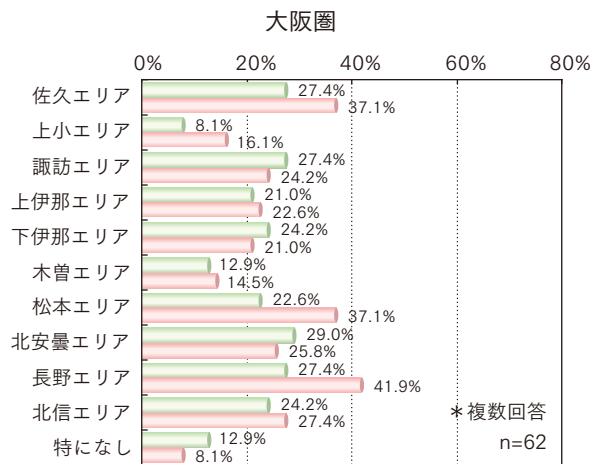
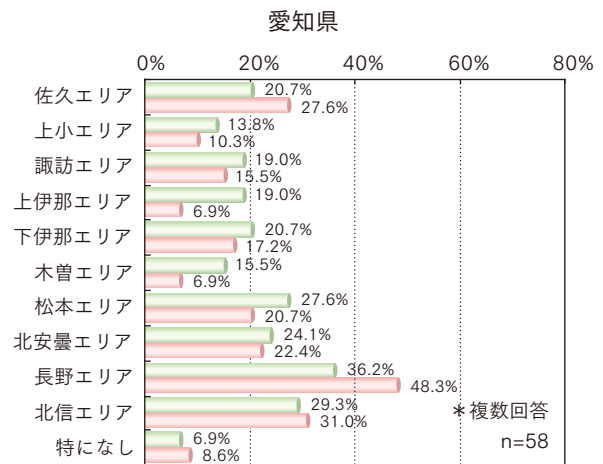
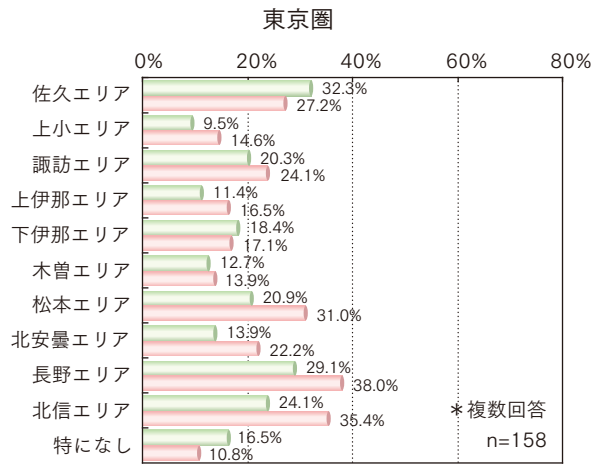
北陸新幹線の延伸による行動の変化



変化の内容

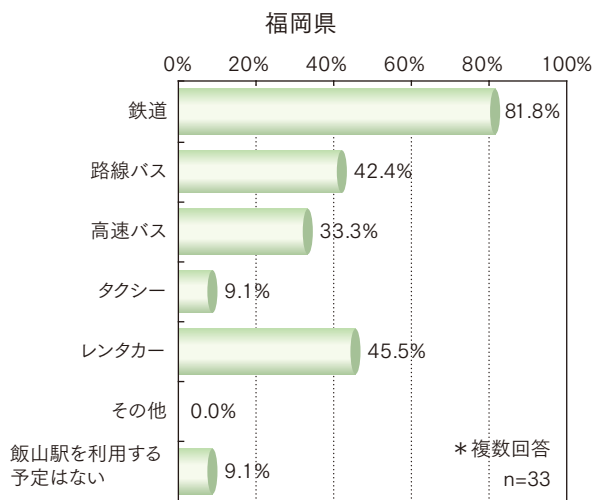
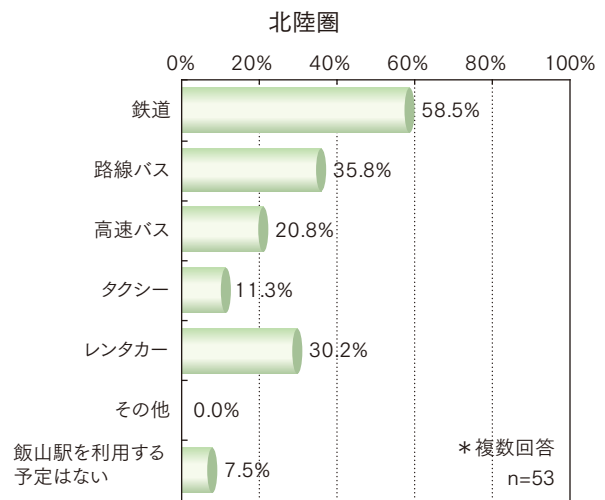
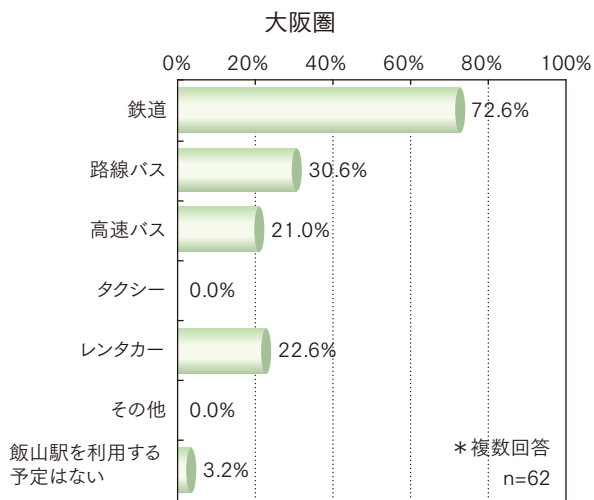
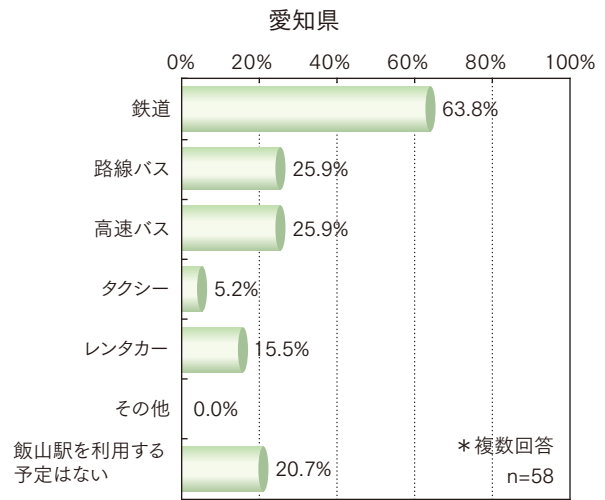
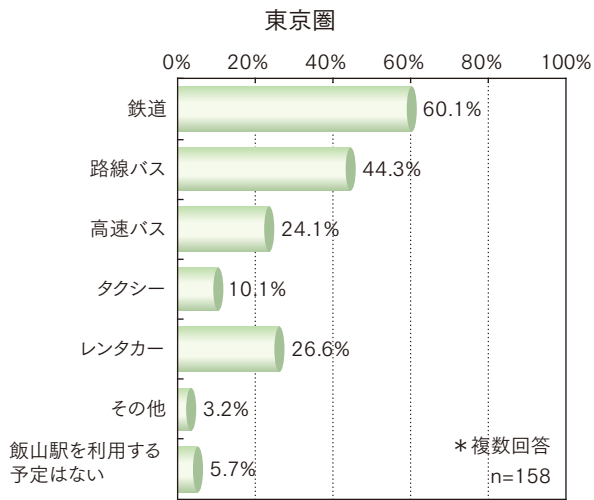


問 北陸新幹線を利用して観光・レジャー目的により、長野県に「日帰り旅行」、「宿泊旅行」をする場合、どの地域に行く機会が増えると思いますか。（「県外居住者アンケート調査」より）



■ 日帰りが増えると思う場所
■ 宿泊旅行が増えると思う場所

問 北陸新幹線飯山駅から移動する交通手段として何を希望しますか。
 (「県外居住者アンケート調査」より)



長野県新総合交通ビジョン検討委員会名簿

(敬称略、五十音順、役職名は平成 25 年 3 月 15 日現在)

氏名	役職	備考
青木 真美	同志社大学 商学部 商学研究科 教授	
石井 晴夫	東洋大学 経営学部 経営学科 教授	
久保田 勝士	長野県町村会 総務文教部会長 (高山村長)	
黒川 洸	一般財団法人 計量計画研究所 代表理事	委員長
塩谷 さやか	桜美林大学 ビジネスマネジメント学群 准教授	
鈴木 文彦	交通ジャーナリスト	
高瀬 達夫	信州大学 工学部 土木工学科 准教授	
原田 昇	東京大学 大学院 工学系研究科 研究科長	委員長職務代理者
益山 代利子	松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 准教授	
三木 正夫	長野県市長会 総務文教部会長 (須坂市長)	
水本 正俊	社団法人 長野県経営者協会 専務理事	
柳澤 吉保	長野工業高等専門学校 環境都市工学科 教授	

【オブザーバー】

氏名	役職	備考
桑田 龍太郎	国土交通省 北陸信越運輸局 企画観光部長	平成 24 年 7 月まで 岩城 宏幸
金尾 健司	国土交通省 関東地方整備局 企画部長	
田村 秀夫	国土交通省 中部地方整備局 企画部長	平成 24 年 6 月まで 佐々木 一英

長野県新総合交通ビジョン検討委員会の経過

開催等年月日	内 容
平成23年12月5日	・長野県新総合交通ビジョン検討委員会 設置
平成24年2月9日	・市町村長等との意見交換会（飯伊地域） ・現地調査（リニア中央新幹線事業実施想定区域周辺）
平成24年2月10日	・市町村長等との意見交換会（上伊那地域） ・現地調査（信州まつもと空港）
平成24年3月29日	・市町村長等との意見交換会（諏訪地域）
	・町村長等との意見交換会（木曾地域）
平成24年4月19日	・市町村長との意見交換会（松本地域）
	・市町村長との意見交換会（大北地域）
平成24年5月31日	・市町村長との意見交換会（長野地域）
	・市町村長との意見交換会（北信地域） ・現地調査（北陸新幹線飯山駅周辺）
平成24年6月13日	・論点整理（長野県交通の現状と将来への視点について）
平成24年7月10日	・市町村長との意見交換会（佐久地域） ・現地調査（中部横断自動車道白田IC（仮称）周辺）
平成24年7月11日	・交通事業者との意見交換会 （県内民営鉄道4社、長野県タクシー協会、長野県バス協会）
平成24年8月8日	・市町村長との意見交換会（上小地域） ・交通事業者との意見交換会 （JR西日本、JR東日本、JR東海）
平成24年9月11日	・論点整理（長野県が目指す交通の将来像について）
平成24年10月16日	・論点整理（施策の方向について）
平成24年12月14日	・長野県新総合交通ビジョン素案検討
平成25年1月21日	・長野県新総合交通ビジョン案検討
平成25年1月29日 ～2月28日	・パブリックコメントの実施
平成25年3月15日	・長野県新総合交通ビジョン案決定

用語解説

<あ行>

- 温室効果ガス…………… 11
二酸化炭素等、熱が地球の外に出て行くのを防ぎ、地球を温室に入れたような状態にする気体の総称
- 駅勢圏…………… 36
鉄道駅を中心としてその駅を利用する人が存在する範囲

<か行>

- カーフリーデー…………… 28
街の中心部において1日マイカーを使わない地区を創り出し、車のない都市空間を体験すること。
- 緊急輸送路…………… 29
災害時等に防災拠点や市町村役場を連絡する輸送路として、長野県地域防災計画に位置付けられている道路
- 計器着陸装置 (ILS)…………… 4
着陸進入する航空機に対して、視界が悪い時でも電波を使って安全に滑走路まで誘導するシステム
- 公共交通におけるバリアフリー化…………… 10
鉄道駅にエレベーターを設置するなど、高齢者や障害者等が公共交通機関を利用しやすいようにすること。
- 公共交通におけるユニバーサルデザイン化…………… 10
乗降口の段差を1段としたバスを導入するなど、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が公共交通機関を利用しやすいようにすること。

- 高速バス…………… 7
都市間を結び概ね50km以上運行し、停車する停留所を限定した乗合バスで、高速道路を利用しない路線もある。

- 国際プログラムチャーター便…………… 42
海外と国内との間を複数回連続して運航されるチャーター便

- コミュニティバス…………… 8
地域の交通空白地域において地方公共団体が主体となって、小型バスや定額運賃で運行するバス

<さ行>

- 三次医療圏…………… 10
専門性の高い、高度・特殊な保健医療サービスが行われる区域

- スマートインターチェンジ…………… 19
高速道路の本線やサービスエリアなどに設置されているETC専用のインターチェンジ

- ゾーン30…………… 18
生活道路が集積している区域を「ゾーン」として設定し、ゾーン内の車の最高速度を30km/hに規制すること。

<た行>

- チャーター便…………… 4
主に定期便が運航していない路線に、利用者のニーズに合わせて運航される不定期便

デマンド型交通…………… 8
電話等による予約に基づき、利用者の要求(デマンド)に応じてバス・タクシーを運行するサービス

ドクターヘリ…………… 27
救急医療用の医療機器等を装備し、救急医療の専門医及び看護師が同乗し救急現場等に向かうヘリコプター

<な行>

二次医療圏…………… 10
高度・特殊な医療を除いた入院医療や包括的な保健医療サービスが行われる区域

二地域居住…………… 21
都市に暮らす人が、農山村等の同一地域に中長期的かつ定期的に滞在する居住形態

乗合タクシー…………… 8
バス車両ではなく、ワンボックス等の車両を使用して運行する乗合サービス

ノンステップバス…………… 26
乗降口のステップ(段差)を無くし、より乗降性を高めたバス

<は行>

バス専用レーン…………… 24
バスの定時運行を確保するため、区間や時間帯を限定して、バス専用とする通行帯

パークアンドライド…………… 17
自宅から自家用車で最寄りの駅またはバス停まで行き、公共交通機関に乗り換えて目的地に向かう移動方法

ハブ機能…………… 39
周辺各地へ移動できる様々な交通機関が集中する中心拠点機能

ビジット・ジャパン・キャンペーン… 13
外国人旅行者の訪日を飛躍的に拡大させることを目的に、国と地方公共団体、民間が共同で取り組んでいるキャンペーンの総称

物流のボトルネック…………… 34
道路の車線減少などにより発生する渋滞などが、円滑な物流の妨げとなること。

<ま行>

モビリティ・マネジメント…………… 28
「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に(=賢く)利用する状態」へと自発的に変えていく取組

<ら行>

旅客地域流動調査…………… 6
国土交通省が、鉄道、自動車、航空等の各輸送機関別に国内地域間の輸送状況を明らかにし、需要予測や施設整備計画立案等の基礎資料とすることを目的に実施している調査

<わ行>

ワンステップバス…………… 26
乗降口のステップ(段差)を1段だけとし、乗降性を高めたバス

<英字>

A T S ……………	31	I Cカード ……………	24
自動列車停止装置。衝突防止などのため、列車のブレーキを自動的に動作させて停止させるなど、衝突や脱線などの事故を防ぐ装置		乗車時・降車時に読取機にカードを接触させるだけで情報を読み取り、運賃の支払いが可能なカード	
B R T (バスラピッドトランジット) ……………	24	I C T (情報通信技術) ……………	39
バスレーンの導入など走行環境の改善により、定時性や速達性を確保したバスをベースとした次世代の交通システム		情報や通信に関する技術の総称	
F G T (フリーゲージトレイン) ……	39	L R T (ライトレールトランジット) ……………	24
新幹線と在来線を直通運転することができるよう、車両の車輪幅を軌間(ゲージ)にあわせて自動的に変換する電車		低床式車両の活用などによる乗降の容易性、快適性などの面で優れた特徴を有する次世代の路面電車	

長野県新総合交通ビジョン

平成25年(2013年)3月

発行：長野県 企画部 交通政策課
〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2
電話 (026) 232-0111 (代表)
FAX (026) 235-7396
E-Mail : kotsu@pref.nagano.lg.jp

しあわせ  信州